

国立国語研究所学術情報リポジトリ

近現代語における「もちろん」の用法

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-03-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東泉, 裕子, 高橋, 圭子, Higashiizumi, Yuko, Takahashi, Keiko メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003743

近現代語における「もちろん」の用法

東泉 裕子 (東洋大学)

高橋 圭子 (東洋大学)

Usage of *mochiron* in modern and contemporary Japanese

Yuko Higashiizumi (Toyo University)

Keiko Takahashi (Toyo University)

要旨

本研究では、各種コーパスを利用し、近現代語における「もちろん」の用法を調査した結果を報告する。調査の結果、次の3点が明らかになった。(i)19世紀末から20世紀初頭にかけて、中世以来中心的であった名詞述語用法の割合が減少し、副詞としての用法(副詞用法、譲歩用法、応答用法)が増加した。(ii)現代の会話では「もちろん」単独の形式や畳語の形式による感動詞的な応答用法が観察される。(iii)近現代には「～はもちろん(のこと)…も/まで(も)」という尺度含意用法や、「もちろん…〈逆接表現〉…」といった譲歩用法などが定型化した。

1. はじめに

現代日本語の「もちろん」には、主に(1)～(5)のような用法がある。(1)～(5)は「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)」および「日本語日常会話コーパス (モニター公開版)(CEJC)」のものである¹。「もちろん」の品詞は、(1)・(5)は名詞、(2)～(4)は副詞である。

- (1) 博士論文は、修士論文より高度でなければならぬことはもちろんである。
BCCW, LBi3_00011, 910, 1994 年
- (2) 尾形： #うん#え#来るっしょう#
菊地： #もちろん行きますよ#
尾形： #お#いいね#
CEJC, T006_006b, 48710, 2016 年
- (3) このようにいうと、何か遠大な理想に邁進せよというように聞こえるかもしれないが、必ずしもそうではない。もちろんライフ・ワークを大きく持つこともいいかもしれないが、ささやかなことによるこびを見出すことも重要である。
BCCW, OB1X_00192, 54200, 2004 年
- (4) 武井： #一個食べて平気なの#
佐竹： #もちろん#
矢口： #うん#うん#うん#
CEJC, T011_017, 93930, 2017 年

¹ コーパス検索アプリケーション『中納言』で検索した用例には、順に、コーパス略称、サンプルID、開始位置、出版年/収録年などを記す。以下、用例の下線は稿者らによる。なお、CEJCの用例の「#」は、発話単位を示す区切りである。

- (5) オーストラリアの学校では、大学はもちろんのこと、高等学校から小学校の教育機関においても、英語以外の外国語授業を活発に行っているところがひじょうに多い。
BCCW, OT33_00100, 16550, 2006年

(1)はコンピュータを伴う名詞述語の用法である。(2)~(4)は副詞の用法である。(2)は一般的な副詞の用法である。(3)は副詞「もちろん」が「もちろん…〈逆接表現〉…」という談話構造で使用され、全体で「譲歩」の意味を表す用法である。(4)は副詞の感動詞的用法であり、相手の発話への応答として用いられている。(5)は「~はもちろんのこと…も」という定型化した「尺度含意」の表現である。本稿では、(1)を名詞述語用法²、(2)を副詞用法、(3)を譲歩用法、(4)を応答用法、(5)を尺度含意用法と、それぞれ呼ぶことにする。

本研究では、各種コーパスを用いて、近現代語の「もちろん」の使用実態を調査する。

2. 先行研究

2.1 「もちろん」の語史

「勿論/もちろん」という語が出現したのは中世である(藤堂(編)1978、諸橋 2018、『日本国語大辞典 第二版』)。中世の用例は文末での名詞述語用法が中心であったが、(2)のような副詞用法もすでに見出される(中山 1995、鳴海 2014、高橋・東泉 2019, 2020a)。また、(4)のような応答用法の先駆的例も観察される(高橋・東泉 2019, 2020a)。近世にはジャンルや分野を問わず広く用いられるようになり、(3)の譲歩用法や(5)の尺度含意用法も少なからず見出されるようになる(高橋・東泉 2019, 2020a, 2020b)。

2.2 現代語における「もちろん」の用法

(2)のような「もちろん」の副詞用法は、「誘導副詞」(渡辺 1971)、「話し手の主観的態度を表す副詞(SSA 副詞)」(森本 1994)、「叙法副詞」(工藤 2016)、「陳述副用語」の一つ(趙 2013)として研究されてきた。

(3)の譲歩用法については、趙(2013: 227)、飛田・浅田(2018: 548)などでも指摘されている。東泉・高橋(2020)は、現代語のコーパスを用いて、この用法を調査している。

(4)のような「もちろん」の用法を「応答表現」として分析した研究には、柏野(2019, 2020)がある。「応答表現」とは、「相手の発話に応じ、何らかの反応を返す表現」(柏野 2019: 368、2020: 331)のことである。柏野(2019, 2020)は、「うん」「はい」「ああ」などの狭義の感動詞だけでなく、「ですよ」「だろうね」などの文末表現に由来するものや、「いいね」「さすが」「すごい」「なるほど」「確かに」「了解」「もちろん」「だいじょぶ」「だめ」なども「応答表現」としている³。同じように、「もちろん」を「応答表現」として分析した研究には、森山(1989)、蓮沼(2018, 2021)などがある。

(5)のような尺度含意用法は、グループ・ジャマシイ(編)(1998: 586-587)、飛田・浅田(2018: 584)などに記述されている。

² 「~はもちろんだが」などの「~はもちろん+コンピュータ+〈逆接表現〉…」は譲歩の意味を表すが、本稿の調査対象では6例(いずれも表2のCHJ1874-1909雑誌・教科書)のみであり、便宜上、本稿では名詞述語用法に分類した。また、(5)の「もちろん」は名詞だが、(1)とは用法が異なるため別に分類した。

³ 日本語学会(編)(2018: 191)は、感動詞を、「ああ」「へえ」「ほほう」などの「原生感動詞」と「あれっ」「どれ」「ほんと」など他の品詞から転成した「転成感動詞」に分けている。前者が狭義の感動詞に相当する。

3. 調査データ

今回の調査に用いたコーパスは表 1 にまとめた。いずれのコーパスも国立国語研究所コーパス開発センターによるものである。

青空文庫パッケージ以外は、コーパス検索アプリケーション『中納言』を用いて検索した。短単位モードを使い、語彙素「勿論」で検索を行った。

青空文庫パッケージについては、全文検索システム『ひまわり』ver.1.7.2 を利用した。文字列検索で「勿論」「もちろん」をそれぞれ検索し、100 語ずつランダムに抽出した。

コーパスから得た用例は、目視で確認し、前後の文脈が不明のものは除去した。検索は、2021 年 11 月から 2022 年 4 月に行った。

表 1 調査対象コーパス

コーパス名 (略称)	調査対象 期間	データ バージョン	中納言 バージョン	分析対象 用例数
日本語歴史コーパス(CHJ)	1874–1925	2022.03	2.5.2	106
青空文庫パッケージ(AO)	1926–1962	2022-04-02	—	92
現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)	1976–2007	2021.03	2.4.5	233
昭和話し言葉コーパス(SSC) (丸山他 2022)	1952–1956	2022.03	2.4.5	135
日本語話し言葉コーパス(CSJ)	1999–2001	2019.01	2.4.2	117
日本語日常会話コーパス(モニター公 開版)(CEJC)(小磯他 2020)	2016–2018	2021.03	2.4.5	177

4. 調査結果

4.1 近現代語の書き言葉のコーパスにおける「もちろん」

表 2 は、本研究で調査対象とした近現代語の書き言葉のコーパスにおける「もちろん」の用例をまとめたものである。CHJ の調査対象期間における「もちろん」の用例は「明治・大正-雑誌」および「明治・大正-教科書」に見出された。そこで、BCCWJ においても「出版・雑誌」および「特定の目的・教科書」を利用した。ただし、「出版・雑誌」は用例数が多いためコアデータのみを対象にした。また、「出版・雑誌」以外のコアデータの用例数を、調査対象期間「1976–2008」の列にまとめた。

表 2 から読み取れることは、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて、名詞述語用法の割合が減少し、副詞(副詞用法、譲歩用法、応答用法)としての用法の割合が増加したことである。また、譲歩用法や尺度含意用法などの定型化した表現が、近現代語ではある程度定着したことが窺える。

表2 近現代語の書き言葉のコーパスにおける「もちろん」

調査対象期間	1874-1909	1917-1925	1926-1962	2001-2007	1976-2008	
コーパス	CHJ	CHJ	AO	BCCWJ	BCCWJ	
サブコーパス	雑誌・ 教科書	雑誌・ 教科書	—	雑誌・ 教科書	雑誌・教 科書以外 ⁴	
名詞述語用法	15 24.2%	3 6.8%	1 1.1%	2 2.0%	2 1.5%	
副詞	副詞用法	20 32.3%	21 47.7%	65 70.7%	54 53.5%	89 67.4%
	譲歩用法	10 16.1%	12 27.3%	10 10.9%	21 20.8%	30 22.7%
	応答用法	1 1.6%	1 2.3%	3 3.3%	2 2.0%	1 0.8%
	小計	31 50.0%	34 77.3%	78 84.8%	77 76.2%	120 90.9%
尺度含意用法	16 25.8%	7 15.9%	13 14.1%	22 21.8%	10 7.6%	
合計	62 100%	44 100%	92 100%	101 100%	132 100%	

「もちろん」の応答用法は、少数ではあるが、小説などの会話において確認することができた。(6)は本調査における初出例であり、(7)はその次に古い例である。20世紀初頭には、「もちろん」の応答用法が会話で使用されていたことを窺い知ることができる。ただし、2例とも表2のAOの調査対象期間(1926-1962年)以前における用例であるため、表2の用例数には含めなかった。

(6) 「君、僕は昨夜からの疑問だがネ、梅子さんの胸底には若し、恋が潜んでるのぢや無からうか」大橋は莞爾と打ち笑み「勿論！彼女の心が恋愛の聖火に燃ゆること、抑も一朝一夕の故に非らずサ、...(略)... AO, 『火の柱』, 木下尚江, 1904年⁵

(7) 「いろんなものにひかれるのは結構じゃないか。つまりそれだけ、おぬしはあたまが広いのだからな。」そう出られれば「もちろん」と裕佐はいいたくなるのだった。 AO, 『青銅の基督』, 長与善郎, 1923年

次の(8)と(9)も、「もちろん」の応答用法と同様の働きをしていると考えられるため、応答用法として数えた。

⁴ 「出版・雑誌」以外のコアデータは、「出版・新聞」、「出版・書籍」、「特定目的・白書」、「特定目的・知恵袋」、「特定目的・ブログ」である。

⁵ 青空文庫パッケージの用例には、順に、コーパス略称、作品名、著者、初出年を記す。なお、用例の下線は稿者らによる。

- (8) 宮城。 むむ、それで、けふ、やすんだんだな。
山口。 もち論でさ、まア、これを御覽じろ。

CHJ, 60M 女雑 1894_37015, 53090, 1894 年

- (9) 『...(略)... 私の無免許を罰しないと約束するなら、あなたの命を救ふ爲に、私の心理的施術をしてあげませう』と私は言つた。『勿論ですとも。ああ又痛くなつて来た、早くして下さい』と言ふから ...(略)...

CHJ, 60M 太陽 1925_04056, 36020, 1925 年

4.2 現代語の話し言葉のコーパスにおける「もちろん」

表3は本研究で調査対象とした現代語の話し言葉のコーパスにおける「もちろん」の用例数とその使用比率である。ただし、CSJは用例数が多いためコアデータのみを対象にした。

表3 現代語の話し言葉のコーパスにおける「もちろん」

調査対象期間		1955-1974	1999-2001	1952-1969	1986-2018
タイプ		独話		対話/会話	
コーパス		SSC	CSJ	SSC	CSJ & CEJC
名詞述語用法		1 1.1%		2 4.3%	3 1.6%
副詞	副詞用法	62 70.5%	54 50.5%	32 68.1%	81 43.3%
	譲歩用法	22 25.0%	53 49.5%	6 12.8%	54 28.9%
	応答用法			4 8.5%	47 25.1%
	小計	84 98.9%	107 100.0%	42 89.4%	182 97.3%
尺度含意用法		3 3.4%		3 6.4%	2 1.1%
合計		88 100%	107 100%	47 100%	187 100%

表3からは、「もちろん」は大部分が副詞(副詞用法、譲歩用法、応答用法)として使用されていることが確認できる。

4.3 現代語の話し言葉のコーパスにおける「もちろん」の応答用法

表4は、話し言葉のコーパスの会話における「もちろん」の応答用法をまとめたものである。(4)のような単独の形式の「もちろん」の他に、「もちろんもちろん」などの畳語、その他の形式を応答用法として数えた。なお、表4の数値は「あー」「えっ」「うん」などが先行するものも含む⁶。

⁶ これらの表現は、CEJCで「感動詞-一般」のタグが付与されているものとした。

表4 現代語の話し言葉のコーパスにおける「もちろん」の応答用法⁷

調査対象期間	1952-1969	1986-2018	用例
タイプ	会話		
コーパス	SSC	CEJC	
もちろん (もちろん、もちろんもちろん、他)	4 100%	34 72.3%	(4), (10), (11), (12)
もちろん+終助詞		2 4.3%	(13)
もちろん+コピュラ (+終助詞)		10 21.3%	(14), (15)
それはもちろん		1 2.1%	(16)
合計	4 100%	47 100%	

(10)~(16)は、応答用法の例である。(10)~(12)は、「もちろん」が2回以上繰り返されているものである。(12)ではフィラーの「まあ」が前接している。(13)では「うん」に続く「もちろん」に終助詞「ね」が付加されている。(14)・(15)はコピュラを伴い、(15)にはさらに終助詞が付加されている。(13)・(16)は、モノローグ的な発話の間で使用されていることから、相槌的な用法と考えることもできる。

- (10) 島村： #あとあのレンジでちんした野菜が基本よね#
すみれ： #もちろんもちろん#
はるな： #あー#レンジでちんした野菜って何# CEJC, K004_008, 38760, 2017年
- (11) 牧野： #もし来ていただけるととても心強いですけれど#
由美： #もちろんもちろん#もちろんもちろん#
牧野： #うーんと六日#六月六日# CEJC, T003_003, 29760, 2016年
- (12) 大場： #だから...(略)...普通の楽譜の感じで来られたら全部わかるってゆう#
徹： #まあもちろんもちろんもちろん#
龍之介： #うん# CEJC, T010_004, 84810, 2016年
- (13) 岩崎： #ほんとは...(略)...一応ディベディベートだから反対意見と賛成意見を
やってみるってゆう#
一ノ宮： #うん#
松下： #うん#そう#
田代： #うん#もちろんね
松下： #そう#
岩崎： #それでを見てどう思いましたか# CEJC, T004_013, 57940, 2016年

⁷ 「もちろん」の応答用法の用例は、CSJの「対話」では皆無だった。

- (14) 青井： #わたしもワインいただいていいですか#
 はるか： #もちろんです#
 由里子： #どうぞ# CEJC, T004_010b, 7560, 2016 年
- (15) 田辺： #ここってでもお酒とかって飲めたりするんですか
 溝口： #もちろんだよ#
 由里子： #なんか#あつ# CEJC, T013_013, 7990, 2017 年
- (16) 神崎： #でやっぱどんなどんな人でもさやっぱ平和に生きたいとは思ってるし#
 徹： #それはもちろんもちろん#
 神崎： #みんな仲良くできたらいいなって絶対思ってるはずなんだよね#
 CEJC, T010_013, 73270, 2017 年

5 おわりに

本発表では、近現代語における「もちろん」の用法を、複数のコーパスを用いて調査した。その結果、19世紀末から20世紀初頭にかけて、名詞述語用法の割合が減少し、「もちろん」の副詞の用法(副詞用法、譲歩用法、応答用法)が増加したことが明らかになった。また、現代の会話では、「もちろん」単独の形式や畳語の形式の応答用法が観察された。さらに、「～はもちろん(のこと)…も/まで(も)」や「もちろん～、〈逆接表現〉…」などの定型化した表現が、近現代に定着したこともわかった。

今後、さらに調査対象を拡大し、用例を精査していきたい。

謝 辞

言語資源ワークショップ2022において示唆に富むご意見やご質問をお寄せくださった皆様に感謝申し上げます。なお、本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金による基盤研究(C)「漢字文化圏における漢語の語用論的標識化」(研究代表:高橋圭子、課題番号:20K00650)、同「構文化としての定型表現の発達と談話構造の並行進化について—英語史からの検証—」(研究代表:柴崎礼士郎、課題番号:22K00610)の研究成果の一部である。

文 献

- 柏野和佳子 (2019) 『日本語日常会話コーパス』モニター公開版に見られる応答表現『言語資源活用ワークショップ発表論文集』4, pp. 386–380. 国立国語研究所
- 柏野和佳子 (2020) 『日本語日常会話コーパス』モニター公開版に見られる感動詞以外の応答表現』5, pp. 331–347. 国立国語研究所
- 工藤浩 (2016) 『副詞と文』ひつじ書房
- 小磯花絵・天谷晴香・居關友里子・臼田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉 (2020) 『日本語日常会話コーパス』モニター版の設計・評価・予備的分析『国立国語研究所論集』18, pp. 17–33. 国立国語研究所
- 高橋圭子・東泉裕子 (2019) 『『勿論』考』『言語資源活用ワークショップ発表論文集』4, pp. 128–138. 国立国語研究所
- 高橋圭子・東泉裕子 (2020a) 「語用論的標識としての『勿論』の歴史」『東洋大学人間科学総

- 合研究所紀要』22, pp. 197–208. 東洋大学人間科学総合研究所
高橋圭子・東泉裕子 (2020b) 「ヘッジとしての『もちろん』の歴史」『コミュニケーション文化』14, pp. 43–49. 東洋大学人間科学総合研究所
趙英姫 (2013) 「近現代の漢語副詞の成立」野村雅昭 (編)『現代日本漢語の探究』pp. 214–233. 東京堂出版
中山緑朗 (1995) 『平安・鎌倉時代古記録の語彙』東苑社
鳴海伸一 (2014) 「漢語形容動詞・副詞の品詞性と用法変化：通時的観点からみた近現代の特徴」『国立国語研究所共同研究報告 13-03 近現代日本語における新語・新用法の研究』pp. 56–75. 国立国語研究所
蓮沼昭子 (2018) 「自然談話における副詞の応答用法—「もちろん」「たしかに」「なるほど」を例に—」『日本語日本文学』28, pp. 1–16. 創価大学日本語日本文学会
蓮沼昭子 (2021) 「自然談話における副詞の応答用法—「もちろん」「たしかに」「なるほど」を例に—」『日本語日本文学』31, pp. 30–56. 創価大学日本語日本文学会
東泉裕子・高橋圭子 (2020) 「現代日本語における『もちろん』のヘッジ用法—現代語コーパスの用例より—」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』12, pp. 26–43. アカデミック・ジャパニーズ・グループ研究会
丸山岳彦・小磯花絵・西川賢哉 (2022) 「『昭和話し言葉コーパス』の設計と構築」『国立国語研究所論集』22, pp. 197–221. 国立国語研究所
森本順子 (1994) 『話し手の主観を表す副詞について』くろしお出版
森山卓郎 (1989) 「応答と談話管理システム」『阪大日本語研究』1, pp. 63–88. 大阪大学文学部
渡辺実 (1971) 『国語構文論』塙書房

辞書・辞典

- グループ・ジャマシイ(編)(1998)『日本語文型辞典』くろしお出版
藤堂明保(編)(1978)『学研漢和大字典』学習研究社
日本語学会(編)(2018)『日本語学大辞典』東京堂出版
飛田良文・浅田秀子 (2018)『現代副詞用法辞典 新装版』東京堂出版
諸橋轍次(著) 鎌田正・米山寅太郎(修訂増補)(2018)『大漢和辞典 デジタル版』大修館書店

関連 URL

- コーパス検索アプリケーション『中納言』 <https://chunagon.ninjal.ac.jp/>
国立国語研究所言語資源開発センター <https://clrd.ninjal.ac.jp>
Japan Knowledge Lib『日本国語大辞典 第二版』 <https://japanknowledge.com/library/>
全文検索システム『ひまわり』 <https://csd.ninjal.ac.jp/lrc/index.php?himawari>